



# 結婚披露宴

## Topics 1

### 「ごちゃまぜ」が国の共通言語に 第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略に文言明記

創生総合戦略に文言明記

第二期まち・ひと・しごと創生総合戦略が策定されました。人口減少に歯止めをかけ、東京圏への人口の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持することを目的として取り組みが始まった地方創生。これを実現するために策定された第二期総合戦略(2015〜2019)に続くのが第二期総合戦略です。この五年間で進められてきた施策の検証を行い、今後五年間の目標や方向性が定められました。

その中で注目すべきは「ごちゃまぜ」や「コミュニティ」の文言が明記されたことです。第二期総合戦略では、従来の四つの基本目標に加え、新たに「断片的な目標を追加しました。そのうちの二つは「誰もが活躍する地域社会の推進」については「年齢や障害の有無等を問わず、誰もが交流できる地域共生型による多世代交流の場づくりやコミュニティ



## 師僧逝く天に奏でる颯雲

この日は、昨年9月6日、佛子園の雄谷助成会長(妙法山行善寺第46世)が遷化された際、雄谷理事長が住職を務める普香山蓮昌寺の檀家総代目細仲氏(目細八郎兵衛商店第19代当主)が、理事長にあてて詠んだ句です。葬儀当日の、秋晴れの空に白雲が見送るように流れて、いたその句で表現されました。あれから季節は移り変わり、早くも年を迎えようとしています。

## Topics 2

### 輪島KABULET® いしかわ景観大賞受賞

令和元年度(第26回)いしかわ景観大賞に輪島KABULET®が選ばれました。この賞はいしかわ景観総合条例に基づき、良好な景観の形成に貢献している個人または団体を顕彰するもので、過去には「鼓門やししいき迎賓館」も受賞しています。輪島KABULET®の取り組みは「輪島市中心市街地に点在する空き家・空き地を利用し、従来の輪島の街並みを継承し、地域をよく調和している温泉、食事処、カフェなど地域住民が集える拠点施設を整備すること」が評価されました。



令和2年4月  
グループホーム  
「グレイス」  
(小松市)開設

令和2年5月  
輪島KABULET®  
食品加工センター  
(輪島市)開設

令和2年9月  
グループホーム  
「キートス」  
(輪島市)開設予定

令和2年6月  
グループホーム  
「ヴィナカ」  
(輪島市)開設

## 表紙

日本海倶楽部でウェブページ。青い空と穏やかな海がジュニアライオンを包み込みます。

これからの新しい行動様式を考えたと思います。楽しくオンラインに。 法人本部 奥村

## 発行

妙法山 80号  
社会福祉法人 佛子園  
石川県白山市北安田町54番地2  
TEL 076-1275-0616  
MAIL headoffice@bussen.com  
http://www.bussen.com  
P 谷良成  
発行日 令和2年6月22日

# BUSSION VISION 2030 アクションプラン2020

BUSSION VISION 2030は、佛子園版SDGsとも言うべき成長目標であり、2018よりプロジェクトがスタートしました。2030年までの到達目標に対して、ムーンショット的に一年ごとの行動指針を示したものが「アクションプラン」となります。今回はACTION PLAN 2020の取組みのうち5つのテーマをご紹介します。

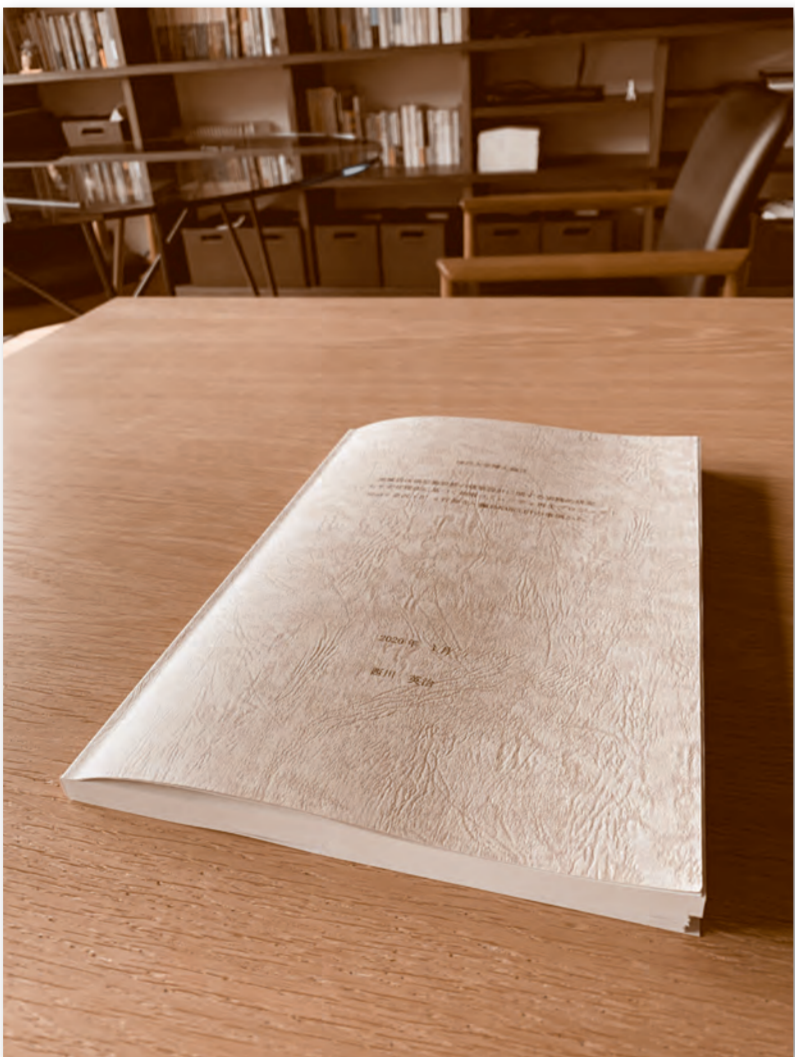
1. BUSSIONの品格	BUSSION派 イノベーションを全国へ	三草二本 寄り合い 緑り合い 寄り合う社会	あそびから未来を変える	人生100年時代の LIFE SHIFT	一人ひとりに共感する 圧倒的なスペシャリティ
7. 人を育てられる 人を育てよう!	健康にかなり詳しい 集団づくり	職場にドラえもん	OCEANS — 愉快な仲間づくり	ネイチャーマインド— 自然への畏敬	そして僕たちは 海を渡る...

大切な会食の場で意外に目につくのが食のマナー。マナーを身に置くタイミングは、「吸い物のお椀の蓋を開けたらここ」に置けばよいかなど基本を知り、余裕をもって料理や会話を楽しむのがまさに大人のマナーです。他者への思いやりによって皆がよい雰囲気の中で食事が出来るためのテーブルマナーに取り組めます。食事中だけでなく、人に関わる様々な場面において、他者への配慮を忘れずに行動することが品格につながります。

「あそびの玉は誰だぞ」。「私の特技は圧倒的な〇〇」など毎月出されるお題に対して、各拠点スタッフの知られざる一面を紹介する。クリエイティブ力が試されるボクサー風や4コマ漫画風等のアレンジから、普段見れないスタッフの様子を皆が共有できるワークショップ、ドキドキの投票により、年間のグランプリの拠点施設が表彰されます。

「育児休暇は取って良かったですね。きつこともありますが、喜び感動がけがえのないものがある」とは12日間の育児休暇を取得した小泉環境社の発着、佛子園で進捗部職員以上に男性職員が育児休暇取得できる職場づくりを目指します。子育てによるコミュニティ(参加型)の構築は、復帰したあとの職場のイノベーション、生産性の高い働き方を築きます。新型コロナウイルスを機に広まったテレワークも積極的に取り入れ、残業削減等、働き方改革を進めます。

一人ではできないことも、4人一緒なら実現できるを合言葉に健康づくりを行います。地産地消が健康?、自分の為?、魅せるため?、個人の思い、チームの目標を基にGOTCHAIWELNESがチーム毎にオーダーメイドでプログラム。全拠点14チーム、56名が参加する取り組みとなります。



## 観天望気

「地域居住福祉施設設計の設計に関する実践的研究」ごちゃまぜ理念に基づく地域コミュニティ再生プロジェクト・Share金沢・B・s行善寺・輪島KABULET®の事例から。当法人の盟友、五井建築研究所・西川英治社長の神戸大学博士論文のタイトルである「国立大学で博士号を取る学位論文に「ごちゃまぜ」理念とは、痛切な恐れ入る限り、国の創生基本方針にも「付で」使用されるなど、最近ごちゃまぜが公的な場所でも市民権を得てきている。西川さんとは平成二十三年、地域コミュニティ再生を目的とした三つのプロジェクトを、地域コミュニティ再生を目的としてきた。西川さんは論文冒頭に「これらのプロジェクトの建築設計論及び社会的・歴史的意義を出来るだけ客観的立場で学術論文に近い形でまとめたい」と述べている。設計者として携わった経験を基に「ごちゃまぜ」を促す建築手法を設計論としてまとめる、これはまさに共生社会を創る手法であり、我々の言うところの福祉である。福祉の世界の人間は得てして「心の領域だから」という対人の言葉に逃げたしま。建築設計といった図面や数字のイメージが強い分野からよもや自らの聖域にアプローチがかかるなどとは思ってもよらない。全国の福祉施設の多くは、人の暮らしというより管理優先の建物という現実。この論文を何度も何度も読み返していると、エビデンスづくりが苦手、そんな福祉の側面を見ていた西川さんが我々の弱点を見抜いてそっと助けてくれた。そんな気がする。

(良)

